



FAS 住まい新聞

発行責任者
榎福地建築
北斗市中野通 324
Tel 0138-73-5558
fax 0138-73-8460

～ 家の温熱性能は住んだ翌日から付き纏う ～

◇ 住んでから実感する冷暖房費用！ ◇

家を新築しようとする建主さんの多くは、大きな窓がありベランダと庭には樹木が植えてあり吹き抜けからいっぱい太陽光線が入り、明るい壁を持ったリビングなどを想像した夢やビジョンを描く事でしょう。

私達、建築業者は、とにかく受注するため、あらゆる手段を講じて建主さんを説得しようと試みます。そのためには、誰もが夢に描く、外観や間取りや内装のように、視覚で判断できる提案の方が、はるかに説得力があります。したがって、住んでからでなくては解らない家の温熱性能などは、どうしても後回しになる傾向にあります。

多くのハウスメーカーや工務店は、一応、高気密・高断熱などの性能を表記しています。しかし、グラスウール断熱材などは、壁の中の断熱材が乾燥したまま、しかも壁中に隙間無く充填されている事が前提の数値を積み上げたものです。その他の断熱方法でも、断熱材の熱伝導率（断熱性能）とその厚さで計算した値を示しています。

その断熱材が、充填精度や継ぎ目、重ね方などは殆ど加味されないのです。したがって計算値で表記した温熱性能（Q 値）は、竣工直後の家と何年か経過した家では大きく異なってしまう場合が多いのです。つまり、Q 値で計算した暖房費、冷房費と実際の費用が大きく異なってしまうのです。

外観、内観、装備、間取りなども大切なのですが、とにかく見落としがちになり易い温熱環境の性能は、最初から思慮しておく事が賢明な家づくりなのです。

◇ 素人の建主さんが理解し難い温熱性能 ◇

家の温熱性能である Q 値（熱損失係数）は、断熱材の種類、厚さ、取り付け場所、施工方法、経年変化などの要素が考慮されなければなりません。

しかし、この Q 値などの温熱性能を、素人に説明するにはとても難しい知識が求められます。単に高気密・高断熱住宅と言っても業者側の見解や勝手な規準でこの言葉が使用されているのが現状なのです。

Q 値とは、床、壁、天井面、そして窓などの開口部、更に隙間や換気によって逃げる熱量の全てを計算し、その「総熱損失量」を家の延べ床面積で割った数値です。このように羅列しただけで、小難しく思ってしまう、外観、内観や内装の装備などに夢を描く建主さんに幻滅されてしまうのが現状なのです。

賢明な建主さんは、この温熱性能を基本に間取りや意匠を組み込むでしょう。

◇ 健康被害になる結露とハウスダストと温熱性能 ◇

暖房時の快適な温湿度は、気温 20℃、湿度（相対湿度）50%前後と言われています。この快適な温湿度の時の露点温度（結露が発生する温度）が 9.3℃です。つまり窓の枠やガラス面、或いは壁の中や床下など温度に 9.3℃以下の部分が出来ればそこに結露が発生します。

窓ガラスなどのような見える結露は、拭取る事で解決できます。しかしグラスウールの入った壁の中や床下などでは、カビや腐朽菌の要因となります。

暖房した部屋としない部屋の界壁温度が 9.3℃以下になると、壁を構成している内装材の含水量が増加してカビの胞子が発生する場合があります。気管支炎やアトピー性皮膚炎の要因とされるハウスダストが飛散する恐れがあります。

家の温熱性能は、単に冷暖房の費用面だけでなく、住む人の健康面にまで大きく関わっているのです。

鳩山新政権は、CO2 マイナス 25%削減を国際社会に向かって約束しました。当然、家における省エネ政策に拍車がかかる事でしょう。日本家屋の温熱性能は発展途上国よりまだ劣るとも言われます。日本の家の温熱性能がファースの家なみになると、それだけでマイナス 35%削減となる試算もあります。

時代の潮流はまさに、ファースの家のような超省エネで、高寿命の性能を担保できる家づくりの時代になって来たと言えるでしょう。

（著・福地脩悦）

幸太の知恵袋

窓ガラスの汚れを防ぐには

せっかくきれいに拭いた窓ガラスが、すぐにホコリっぽくなっちゃうって？ そんなときはこうしてごらん。
窓ガラスはね、特に掃除したすぐ後なんかは、静電気が出て周りのホコリや汚れを寄せつけちゃうんだよ。
窓ガラスを拭いた後に、柔軟剤を薄めた液を雑巾に含ませて、それで仕上げ拭きをしてごらん。
柔軟剤が静電気防止の役目をして、ホコリや汚れを付きにくくしてくれるんだよ。



建築情報や知識は、ファース本部のオフィシャルサイトで！

ファースの家

検索